

# 事務事業評価シート

計画対象年度	平成26年度							
事務事業名	大塚児童館・ふれあいセンター管理運営事業（政策）						事業類型	補助事業
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	
			03	02	05	03	政策経費	根拠法令
総合計画体系	第2章 健やか・安心・思いやりのまちづくり						総合計画対象	対象
	第4節 次世代育成の支援						市民協働	市民の関与
	[1] 児童福祉						担当課係等	大塚児童館・ふれあいセンター
事業期間	4 児童の健全育成							児童係
継続（ 年度～ ）								

## 現状把握の部（D0）

【目的】 母親の自主的な研修を通し、会員相互の親睦を図り、母親の教養を高めることにより、児童の健全育成と児童の福祉増進を図る。	【関連事業】 三世代交流会、県地協研修会参加、お楽しみ会、クリスマス会、誕生会、運動会補助等の季節行事の開催等
【期待される効果】 児童館活動の発達充実に寄与され、継続した地域活動が行われること。また、母親クラブの会員だけでなく児童館を活動拠点とし、会員以外の親子も含め、地域子育て支援の連携づくりの中核団体の役割を担う。	【対象者】 母親クラブ会員
【全体概要】 母親の自主的な研修を通し、会員相互の親睦を図り、母親の教養を高めることにより、児童の健全育成と児童の福祉増進を図る。 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動	【特記事項】 児童の健全育成と児童の福祉増進を図り、児童館活動の発展・充実に努めていく。
【平成25年度 事業内容】 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動	【平成26年度 事業内容】 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動
【平成27年度 事業内容】 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動	

## ■事業費

		H25年度	H26年度	H27年度
財源	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	自主財源	414	426	450
歳入計（千円）		414	426	450
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	19 負担金、補助及び交付金	414	426	450
歳出計（千円）（A）		414	426	450
（参考）		当初予算額	0	当初予算額
職員人工数		2.40	2.40	2.30
職員人件費（B）		19,344	18,512	18,285
総事業費（A）＋（B）		19,758	18,938	18,735

■指標

種類	指標名	単位		H25年度	H26年度	H27年度
活動 指標	母親クラブ事業実施回数	回/年	目標	30.00	50.00	50.00
	誕生会・ふれあい夏祭り・ふれあい交流会・クリスマス会・視察研修他		実績	37.00	51.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	母親クラブ事業参加人数	人/年	目標	500.00	500.00	600.00
	誕生会・ふれあい夏祭り・ふれあい交流会・クリスマス会・視察研修他・参加延人数		実績	462.00	645.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

評価の部 (SEE)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 総合計画や子ども・子育て支援事業計画の地域における子育て施策の展開から、適正な管理を図るため。
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は、税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 市民と一体となった、子育て支援やまちづくりを進めていくための、団体への補助事業であり、住民サービス向上に直結するため不可欠である。
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。	<input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 各種イベント活動の発展や、地域づくり活動におけるの事業成果は見られるが、今後も地域状況にあわせた活動内容の拡充が必要である。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない <b>【理由】</b> 地域連帯意識や、人間関係が希薄化し地域との連携が弱くなり、母親の教養や児童の福祉増進の低下につながる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 この事業を市が行う理由は、税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <b>【理由】</b> 類似事業がない。
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <b>【理由】</b> 当事業運営においては、地域組織活動や関係機関等との連携により、必要な事業であり、継続的・安定的に運営することが望ましいことから、削除余地はない。
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 地域の母親や子育て世帯への事業であり、事業費に対して現在の補助金が妥当か、活動内容の見直しや拡充を検証する必要がある。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	市等の補助を受け自主的なボランティア活動をとおり、今後も継続して、家庭、地域、行政が、協働により子育てにやさしいまちづくり活動に努めていく。
1次評価 (1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性 (改革・改善策)) <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 )		記入者: 前島 嘉美
改革・改善の具体的内容 (改革案・実行計画) 継続して事業の充実に努める。		
2次評価 (2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性 (改革・改善策)) <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 )		記入者: 金田 克彦
担当部長としての意見・考え方 (1次評価者と同じ場合も記入) 継続推進する。		

計画対象年度	平成26年度							<b>事務事業評価シート</b>				
事務事業名	放課後児童健全育成事業（政策）							事業類型	補助事業			
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	児童福祉法関係			
			03	02	06	03	政策経費					
総合計画体系	第2章 健やか・安心・思いやりのまちづくり							総合計画対象	対象			
	第4節 次世代育成の支援							市民協働	市民の関与			
	[1] 児童福祉							担当課係等	大塚児童館・ふれあいセンター			
事業期間	継続（年度～）							児童係				

現状把握の部（D0）

<b>【目的】</b>	児童福祉法第6条の3第2項の根拠法に基づき、小学校に就学している児童（1～6年生）であつて、その保護者が労働等のより昼間家庭にいないものに、授業の終了後及び、学校休業日に学校の余裕教室や児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。			<b>【関連事業】</b>	放課後児童健全育成事業（経常）
<b>【期待される効果】</b>	共働き世帯の増加等を背景に学童保育の利用者が増加していることから、保護者への保育ニーズ対応が期待される。			<b>【対象者】</b>	小学生の児童（1～6年生）
<b>【全体概要】</b>	児童福祉法第6条の2第2項の規程に基づき、保護者の就労などにより、日中留守になる家庭の児童に遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。対象は、小学生の児童（1～6年生）。現在、公設16箇所、民設4箇所、計20箇所で開催。＜放課後児童健全育成事業費：国補助金1/3県補助金1/3＞			<b>【特記事項】</b>	新制度施行により、地域のニーズに合わせ、放課後児童クラブを拡大し、職員の資質や施設、設備、児童の集団の規模などについて新たに基準を定め、量の拡充と質の向上を図って行く。
<b>【平成25年度 事業内容】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後児童の健全育成上必要な活動</li> <li>学校や団体との連絡調整等</li> <li>児童クラブの環境整備等</li> </ul>			<b>【平成26年度 事業内容】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後児童の健全育成上必要な活動</li> <li>学校や団体との連絡調整等</li> <li>児童クラブの環境整備等</li> </ul>
	<b>【平成27年度 事業内容】</b>			<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後児童の健全育成上必要な活動</li> <li>学校や団体との連絡調整等</li> <li>児童クラブの環境整備等</li> </ul>	

■事業費

		H25年度	H26年度	H27年度
財源	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	40,717	45,006	89,372
	自主財源	25,968	25,436	43,824
歳入計（千円）		66,685	70,442	133,196
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	07 賃金	46,018	48,732	52,966
	13 委託料	441	227	2,376
	15 工事請負費	0	0	21,870
	19 負担金、補助及び交付金	20,226	21,483	55,984
歳出計（千円）（A）		66,685	70,442	133,196
（参考）		当初予算額	0	当初予算額
職員人工数		3.20	1.60	2.70
職員人件費（B）		25,792	12,341	21,465
総事業費（A）＋（B）		92,477	82,783	154,661
			伸び率(%)	決 89.08 予 95.12

■指標

種類	指標名	単位		H25年度	H26年度	H27年度
活動 指標	放課後児童クラブ開設日数	日/年	目標	250.00	250.00	250.00
	放課後健全育成事業（放課後児童クラブ）開設基準日数		実績	250.00	253.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	放課後児童クラブ入会者数	人/年	目標	605.00	605.00	710.00
	各放課後児童クラブ年間入会者数（年度末）		実績	504.00	556.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

評価の部（SEE）

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 総合計画の適正な管理を図るため。
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 児童福祉法に基づいて行う事業であり、住民サービス向上に直結するため不可欠である。
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。	<input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 必要な事業であり、新制度施行やニーズに合わせて実施しているが、今後も状況にあわせた検証・整備等は必要である。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない <b>【理由】</b> 児童福祉法に基づいて、市で行っている事業であり、新制度施行に伴い対象児童拡大となり、廃止となると、子育てしやすい環境づくりに影響を及ぼす。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <b>【理由】</b> 類似事業がない。
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 （仕様や工法の適正化、市民の協力など）	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <b>【理由】</b> 当事業運営においては、子どもの福祉や地域の実情により、必要な事業であり、継続的・安定的に運営することが望ましいことから、削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 子育て世帯への事業であり、受益者負担について検証が必要である。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	今後も待機児童が発生しないよう、関係各課との調整や民間事業者との連携に努める。また、施設・設備の安全確保と指導員の資質向上のため研修会等を引き続き実施していく。
1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持）		記入者：前島 嘉美
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 新制度の施行により、会員数の増が見込まれるため指導員の確保に努める。		
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持）		記入者：金田 克彦
担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 継続推進する。		